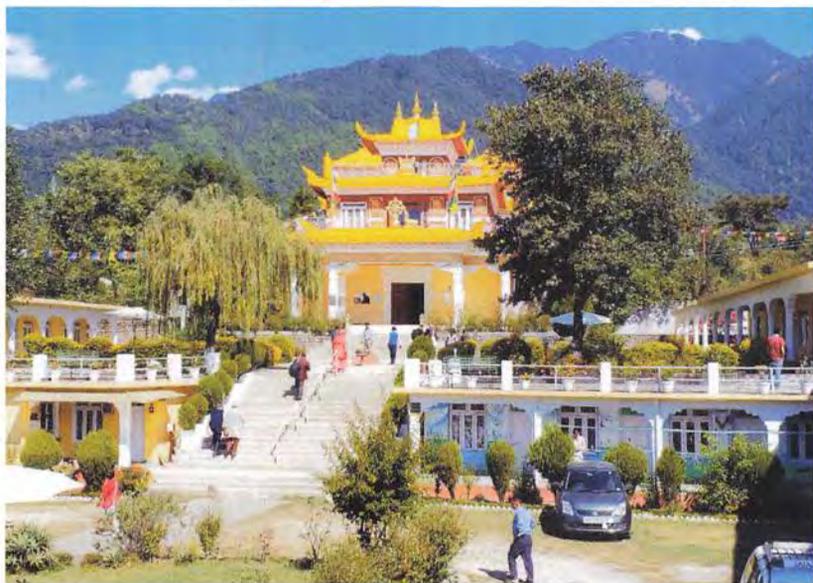


インド渡航歴40回超!

佐藤良純の No. 16

# インド・釈尊あれこれ紀行

INEB総会の会場となった八鹿園研究所



インド僧による開会式



ヒマーチャル・プラデーシュ州ビール

インド渡航歴40回超！

## 佐藤良純のインド・釈尊あれこれ紀行 No.16



六鹿園研究所は循環社会を目指している



INEBの創始者はタイ人のスラック氏、僧侶ではない。右は筆者

INEB (International Network of Engaged Buddhism 社会貢献型仏教) の2019年の総会が、北インドのヒマーチャルプラデーシュ州のビールで開かれた。ビールは州都シムラの北にあり、首都デリーから、プロペラ機で1時間半、バスで10時間にあるヒマラヤ山麓の自然豊かな地だ。

会場は、六鹿園研究所（ティアーパーク インスティテュート）で、小高い丘の上に僧院と宿泊施設がある。総会には日本の各宗派の僧侶も参加、私もその一員として参加し、研究所に宿泊した。研究所には畑もあり、自給自足の生活ができる。所長のパートナーは日本人女性で、その他のスタッフが常駐している。小さいながら図書館もある。

また、ビールはハンングライダーで有名である。10月と11月は世界中から人々が集まる。毎日二十人くらいが上昇気流に乗っている。

ビールにはチベット人が多く住み、言葉や

水流で回る省エネルギーのマニ車



ノルブリンカ研究所での曼荼羅、木像の制作の様子

店の看板は全てチベット語である。

ノルブリンカ研究所（ノルブリンカとはチベットの都ラサの宮殿の下にあるダライラマの離宮の名前）があり、多くのチベットの人々が美術や工芸品を作る練習や訓練がされていて、彼らが作った工芸品が販売されている。土産物ではアルパカが有名。カシミアより高いものだが、その最高級アルパカでも安い。またマニ車があり、中でも水流で回る省エネルギー形のマニ車もあった。車は金属製である。チベット人が多いのは現在、ダライラマの亡命政府があり、ダライラマが住むダラムサラの東50キロにある同じ町だからである。

渡航前にそのための警備もあり、訪問には特別な許可が必要となると聞かされたが、特に問題はなかった。現在のダライラマは14世で、17世紀（1642年）に成立した政府の政治的、宗教的元首である。最近、宗教と政治の分離が発表されている。



ダライ・ラマ14世と筆者

## 佐藤良純

大正大学名誉教授

さとう・りょうじゅん 昭和7年東京生まれ。大正大学、同大学院、インドテリー大学院に学ぶ。昭和34年より大正大学で教鞭をとり、教授、学部長を経て、平成14年退職、大正大学名誉教授となる。インドへの初渡航は昭和38年、以来インドへ訪れること、40有余年。著書に「ブツダガヤ大菩提寺」、「釈尊の生涯」など多数。

ダライ・ラマはチベット仏教最大のゲルク派に属し、観音菩薩の化身（生まれ変わりとされる。時のダライ・ラマが没すると、その遺言や遺体の状況、神託により、ラサから約145キロのチヨコルギャルの村にある、ダライ・ラマの守護神、バルデンハモ（吉祥天）の魂が宿るとされる聖なる湖ラモイ・ラツオ湖の観察、夢占い、何らかの奇跡などをもとに、僧たちによって次のダライ・ラマが生まれる地方やいくつの特徴が予言される。

その場所に行つて子供を探し、誕生時の特徴や癖などをもとにして、その予言に合う子供を候補者を選ぶ。その上でその候補者が本当の化身かどうか、前世の記憶を試し調査する。例えば、先代ゆかりの品物とそうでない品物を同時に見せて、ダライ・ラマの持ち物に愛着を示した時、あるいはその持ち物で先代が行っていたことと同様の癖を行ったりした場合、その子供がダライ・ラマの生まれ変わりだと認定される。